

「最新のでんかんの診断と治療の実際〜リハビリテーション専門職のために〜」

国際医療福祉大学医学部神経内科学講座教授 赤松 直樹

てんかん発作は、脳の神経細胞（ニューロン）が過剰な異常電気活動を起こすことによって、意識障害やけいれんといった症状をきたすものである。てんかん発作を反復して起こす慢性疾患がてんかんである。てんかんは比較的頻度が高い疾患で、1000人あたり8人の有病率である。高齢者のてんかんが増加しており注目されている。

てんかん発作は、部分発作と全般発作に大別される。てんかん放電が脳の一部分の領域から起始する発作が部分発作、発作の最初から両側半球がてんかん放電をきたす発作が全般発作である。部分発作はてんかん放電が伝わり広がると両側半球に及ぶこともあり、このような発作は二次性全般化発作である。脳波やMRIといった診断技術の進歩により正確なてんかん診断が可能になっている。

抗てんかん薬は、脳神経細胞の電気活動を担っているイオンチャネルや神経伝達物質に作用する。現在日本では薬20種類の抗てんかん薬がある。抗てんかん薬治療によって、多くの人で発作が完全に抑制されて普通の生活に支障がなくなる。妊娠中にも服用できる抗てんかん薬もある。抗てんかん薬治療抵抗性である場合、てんかん外科治療がある。近年てんかん外科の進歩により、側頭葉てんかんでは手術治療で80%以上の患者で発作寛解が得られるようになってきている。

意識を失うてんかん発作では、2年以上発作が寛解していないと運転免許は許可されない。道路交通法について患者に書指導する。てんかんという病気には、無理解、誤解、偏見がまだ存在するのも事実ではある。てんかんは、医学的にも解明が進んでおり、抗てんかん薬や手術治療で発作が多くの患者でコントロールできることを医療者も理解して治療にあたる必要がある。

講師略歴

| | |
|---------|--|
| 昭和56年3月 | 兵庫県立西脇高等学校卒業 |
| 昭和62年3月 | 産業医科大学医学部医学科卒業 |
| 平成5年3月 | 産業医科大学大学院博士課程（博医甲第77号） |
| 昭和62年 | 産業医科大学病院・小倉記念病院 臨床研修医 |
| 平成4年 | 米国 Cleveland Clinic 財団病院神経内科レジデント・てんかんフェロー |
| 平成7年 | 社団法人日本健康倶楽部福岡支部（産業医） |
| 平成9年 | 産業医科大学 神経内科助手、平成18年同講師 |
| 平成23年 | 産業医科大学 神経内科准教授 |
| 平成26年 | 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部教授 |
| 平成26年 | 福岡山王病院 脳神経機能センター神経内科（現在も併任） |
| 平成28年 | 国際医療福祉大学大学院 臨床検査学分野教授 |
| 平成29年 | 国際医療福祉大学 医学部神経内科教授 現在に至る |

産業医科大学産業医学基本講座修了認定（産業医学ディプロマ）

米国 ECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduate) 試験合格

日本神経学会 専門医・指導医

日本てんかん学会 専門医・指導医

日本臨床神経生理学会 認定医 脳波分野, 日本頭痛会 専門医

| | |
|------------|---|
| 日本神経学会 | 代議員、てんかんガイドライン委員会副委員長、てんかんセクションコアメンバー、将来構想委員、年次総会学術委員（てんかん分野） |
| 日本てんかん学会 | 理事、代議員、ガイドライン委員長、教育委員、第47回大会副会長 |
| 日本臨床神経生理学会 | 評議員、教育委員、脳波セミナー・アドバンスコース委員 |
| 日本神経治療学会 | 代議員 |

第2回福岡県医学会優秀賞(平成22年)

日本神経学会 Excellent teacher award (平成27年)